

## ◎令和 6 年度外来生物駆除手法等検討調査（福津地区）結果概要（調査期間：R5～7）

- ◆ 農業用ため池におけるアメリカザリガニの効率的かつ効果的な駆除手法を検討するため、トラップ採集及び任意採集による駆除調査の結果、5,180 個体を採捕した。
- ◆ 環境別（樹林際の開放水面、浮葉植物繁茂部、堆砂部、深い開放水面）に採捕数を比較した結果、任意採集は浮葉植物繁茂部、堆砂部で多くの個体を採捕し、トラップ採集は樹林際の開放水面、浮葉植物繁茂部、堆砂部で効果的に採捕することができた。
- ◆ 池干し調査で巣穴の確認調査を実施し、池の水の流入部や、隣接する水田の土水路跡で、巣穴が多く確認された。

## 1 調査概要

農業用ため池におけるアメリカザリガニ（以下、「ザリガニ」という）の駆除に係る効果的な対策手法等を整理し、技術資料に資する基礎データを収集するため、福岡県福津市内のため池を調査地点として設定した。（図 1、図 2）

ザリガニの駆除手法を検討するため、8～11 月にかけて異なる 6 つの手法（表 1）を用いて駆除調査を行った。

表 1 駆除作業の概要



図 1 調査位置図

駆除作業		駆除時期	実施方法	捕獲努力量
湛水期間調査 (水深 1 m 以内の地点で実施)	任意採集	第 1 回:8/6～7 第 2 回:8/20～21	タモ網、サデ網	1 地点あたり 3 人で 10 分間。 (3 地点)
	トラップ採集	第 3 回:9/3～4 第 4 回:9/17～18 第 5 回:10/1～2 第 6 回:10/15～16	あなごカゴ	15 個設置し、翌日回収。
			連続捕獲装置	5 個設置し、2 週間後を目途に回収。
			人工巣穴	5 個設置し、2 週間後を目途に回収。
池干し時調査	任意採集	第 7 回:10/24 第 8 回:10/31 第 9 回:11/7 第 10 回:11/14 補足調査(努力量:30 分): 10/18	巣穴確認・ 個体の採捕	古堂池や池周辺を踏査し、巣穴の確認及び浅場に生息する個体の採捕を行う。 調査努力量は 1 回あたり 90 分×3 人。
	トラップ採集	第 7 回:10/24 第 8 回:10/31	小型定置網	古堂池の下流水路に 1 個設置し、1 週間後に確認。

## 2 調査結果

## (1) ザリガニ駆除手法検討調査結果

## ア 湛水期間調査

本調査における小型定置網前の巡回時の採捕を含む全体の累計駆除数は 5,180 個体で、雌は 46.8%、雄は 46.7%で同程度、性別不明※が 6.5%となった。

※頭胸甲長 10 mm 未満の微小個体や損傷の激しい個体は雌雄の判別が難しく、性別を不明とした。

ザリガニ採捕個体数の環境別の推移を図 3 に示した。各採捕手法を環境別にみると、タモ網・サデ網では、浮葉植物繁茂部、堆砂部で採捕数が多く、樹林際の開放水面の採捕数が少なかった。あなごカゴでは、浮葉植物繁茂部、堆砂部で採捕数が多く、深い開放水面で最も少なかった。また、連続捕獲装置、人工巣穴では、樹林際の開放水面、堆砂部で多くなり、あなごカゴと同様に深い開放水面で最も少なかった。



図 2 古堂池

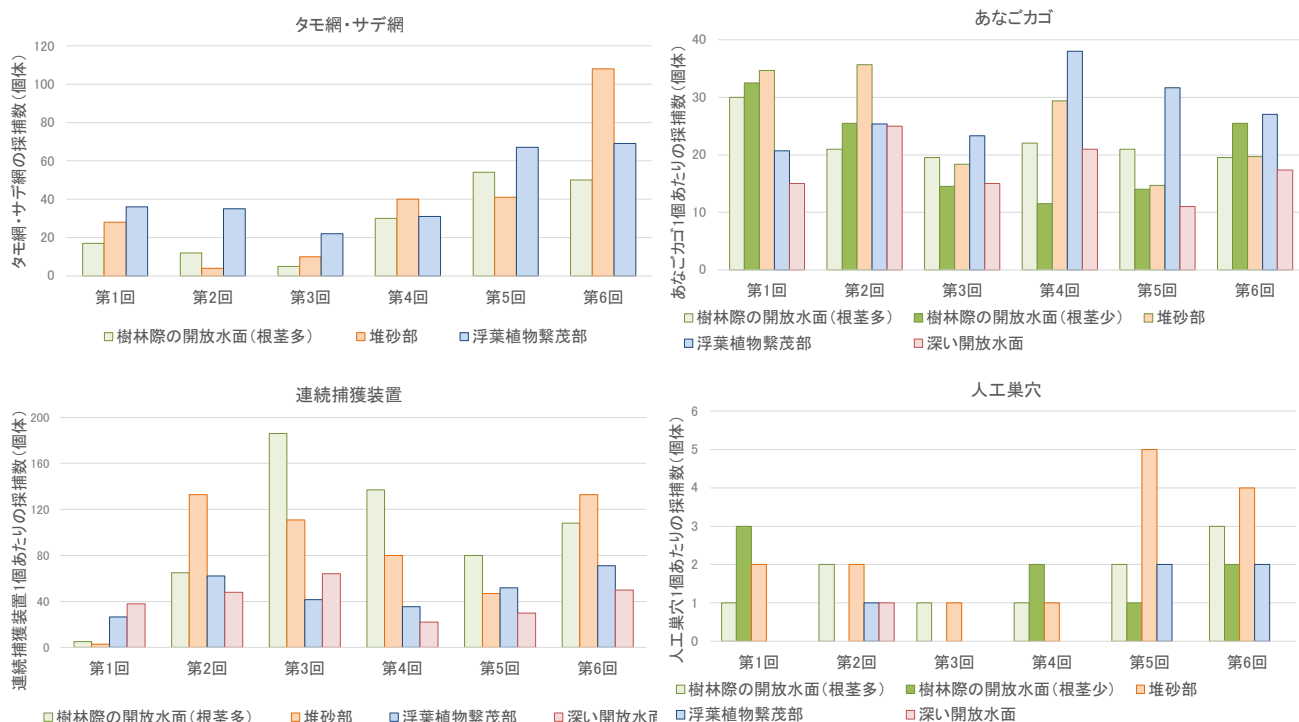


図3 環境別のザリガニ採捕個体数の推移

#### イ 池干し時調査

抱卵・抱稚ザリガニ個体が多く採捕された(図4)。任意採集では、穴や泥に潜っている個体が多く採捕され、小型定置網より効果的であったが、両手法ともに調査回が進むにつれて採捕数が少なくなる傾向がみられた。

また、巣穴は主にため池の流入部周辺(浮葉植物繁茂部)と、隣接する水田の道路沿いの土水路跡(図2赤枠)など、土中に水分が多い地点で確認された。

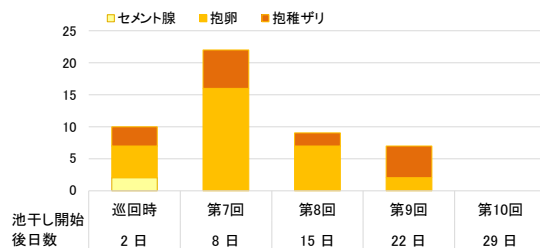


図4 セメント腺あり・抱卵・抱稚ザリガニ個体の採捕数の推移

#### (2) まとめ

採捕地点の環境別の駆除手法について、任意採集では採捕作業の効率が良い堆砂部、トラップ採集では、水中に倒木やつる植物の根茎、スイレンの葉柄等、ザリガニの好む場所が多い樹林際の開放水面、浮葉植物繁茂部、堆砂部で効率的な駆除が実施できる可能性が示唆された。また、浮葉植物繁茂部の水中には、スイレンの葉柄が絡み合うように生育しているため、タモ網・サデ網の作業では、効率性の観点で劣ると考えられた。

なお、データの信憑性を高めるため、次年度も継続して環境条件の違いによる調査を行う。

池干し時調査では、流入部や土水路跡など、土中に水分が多い地点で巣穴が確認された。また、調査回が進むにつれて採捕数が少なくなる傾向がみられ、ザリガニが地中に潜ることや、他の水域へ移動することが原因であると考えられる。そのため、池干し期間中の採捕は、池干し開始後すぐに実施し、2～3週間以内に完了することが望ましいと考えられる。

#### 3 成果の活用方針

調査で得られた知見は、農林水産省が作成する農業水利施設におけるザリガニの駆除対策等に係る技術資料の基礎データとして活用し、農業用ため池等におけるザリガニの駆除手法、施設の改修・更新等の際の対策手法等検討に活用するほか、県、市町村、施設管理者など地元関係機関に駆除の取組を促すため情報提供を行う。

#### 4 お問合せ先

農林水産省九州農政局農村振興部農村環境課  
代表: 096-211-9111